

平成28年度 事業計画書

目 次

I 平成 28 年度事業計画（総括）

- | | |
|--------|---|
| 1 基本方針 | 1 |
| 2 重点項目 | 1 |

II 事業計画

- | | |
|--------------------------|----|
| 1 調査啓発事業 | 2 |
| 2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 | 4 |
| 3 資源化事業 | 5 |
| 3-1 剪定枝等処理事業 | 5 |
| 3-2 びん・缶・ペットボトル選別事業 | 6 |
| 3-3 施設管理受託事業 | 7 |
| (1) ごみ資源化工場ほか施設管理事業 | 7 |
| (2) 中沼プラスチック選別センター施設管理事業 | 7 |
| (3) 中沼雑がみ選別センター施設管理事業 | 8 |
| (4) 札幌市リサイクル団地管理事業 | 9 |
| 3-4 大型ごみ収集センター管理運営事業 | 10 |
| 4 事業系ごみ収集運搬事業 | 11 |

I 平成 28 年度事業計画（総括）

1 基本方針

平成 26 年 3 月に札幌市の一般廃棄物処理基本計画「スリムシティさっぽろ計画」が改定され、札幌市は、さらなるごみ減量・資源化促進に向けた取組を展開しているところである。

公社においても「資源循環型社会」の推進のため、引き続き札幌市と情報を共有しながら、公社が担う廃棄物の減量・資源化に関する事業を着実に進めるとともに、積極的に情報発信することで、自らの役割と責務を果していく必要がある。

公社の基幹事業である事業系ごみ収集運搬事業においては、減少するごみ量に応じた収集体制を構築することが、安定的事業運営の観点から重要な課題となっている。今年度は、平成 27 年より新設した業務推進室を中心に「収集運搬の効率化」へのさらなる取組を進めていく。

また、安定的な事業運営の基盤となる施設やシステムの更新・保全についても、前年に引き続き計画的に実施していく。特に、事業系ごみ収集運搬事業のデータを管理運用する「業務管理システム」については、今年が本格稼働の初年度となることから、旧システムからの切替等を含め、新システムの安定稼働に向けて、慎重に作業を進めていく。

今年度も、さまざまな事業環境の変化に柔軟に対応しつつ、安定的かつ効率的な事業運営に努めていく。

重点項目

- (1) 事業系ごみ収集運搬事業の効率化
- (2) 設備・システムの計画的な更新・保全
- (3) 新たなリサイクルへの研究開発
- (4) 顧客や市民への積極的な情報発信と多様なニーズへの対応
- (5) 事務・事業の見直し及び経費の節減

Ⅱ 事業計画

1 調査啓発事業 (予算額 65,332千円)

■ 調査研究事業

① 事業系一般廃棄物の組成調査

当公社が収集している事業系一般廃棄物の組成調査を実施して、新たな分別収集の実施の可能性について検討し、今後のリサイクル可能量と不適物量の推定、収集運搬事業計画の基礎資料とする。

② ごみ収集に関する顧客満足度調査

事業系ごみ収集運搬事業では、顧客のニーズに的確に対応するため、平成15年度に顧客満足度調査を実施し、サービスの向上に努めてきた。

ここ最近の本事業に対する顧客の評価等を把握するため、アンケート調査を実施し分析等を行い、今後の顧客サービスに生かしていく。

③ 新資源化技術導入に関する調査研究

札幌市では、資源化工場に搬入される、紙くず、木くず、プラスチックの資源ごみが減少していることから、新たな原料のリサイクル等に関する調査研究を平成28年度から実施する。公社も札幌市と連携・協力しながら固形燃料の増産等に関する調査研究を実施する。

■ 普及啓発活動

資源循環型社会の実現に向けて、ごみ減量及びリサイクルの重要性について、広く市民や顧客に対する普及・啓発に努めていく。

① 広報活動

- ・当公社の事業を紹介する「事業案内」の改訂版1,000部を発行する。
- ・年度ごとの事業の実施状況等を報告するために「事業概要」250部を発行する。
- ・各リサイクル施設で実施する資源物等の組成調査、固形燃料の成分分析等及び調査研究結果を中心とした「データ集」150部を発行する。
- ・当公社の事業を始め、廃棄物の処理や分別・リサイクルの取組事例などを紹介する情報誌「アンパス」6,500部を発行する。
- ・びん・缶・ペットボトルの選別とリサイクルの普及啓発のため、児童向けの「キッズパンフレット」等17,000部を発行する。
- ・札幌市内の小学校から、びん・缶・ペットボトルや給食の生ごみのリサイクル等に関する啓発ポスターの作品を募集し、ごみ収集車の荷箱側面に掲載して「走る掲

示板」として啓発活動を行う。

- ・ホームページ等を通じて、公社事業の最新情報を発信する。

② イベントへの参加

「環境広場さっぽろ 2016」等の環境関連イベントに出展し、ごみ減量やリサイクル等の普及啓発に努める。

③ イベントへの協賛及び広告掲載等によるPR

「かんきょうみらいカップ」「さっぽろこども環境コンテスト」等に協賛するとともに、雑誌等の各種広告媒体を活用した普及啓発を行う。

2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 (予算額 57,565千円)

本事業は、札幌市内の少量排出事業所から排出される不燃用プリペイド袋のごみの中から、資源物を手選別しリサイクルを図る事業で、平成21年4月から実施している。

それまで不燃用プリペイド袋で収集されるごみは、札幌市の埋立地で埋立処分されていたが、これら不燃ごみの中のびん・缶・ペットボトル等の再生可能な資源物を選別することでリサイクルの推進と埋立地の延命化が図られている。

平成28年度においても下記により実施する。

■ 処理計画

① ごみ受入量 2,290 t/年

② 資源物の選別品目等

選別する資源物及び選別後の処理は、次のとおり。

選別品目	選別後の処理
びん・缶・ペットボトル	手選別施設で一括選別後、中沼資源選別センターに搬入して、リサイクル品目ごとに再選別
その他金属 電線 小型家電品	金属再生業者に売却
軟質プラスチックなど	ごみ資源化工場で固形燃料の原料としてリサイクル

3 資源化事業 (予算額 1,192,297千円)

3-1 剪定枝等処理事業 (予算額 58,375千円)

本事業は、これまで焼却や埋立処分されてきた剪定枝、伐採木などをチップ化してリサイクルを図る事業で、札幌市ごみ資源化工場の破砕施設を使用して、公社自主事業として平成20年10月から実施している。

搬入された剪定枝や伐採木などは、破砕処理等の工程を経て、大きさ45mm以下のチップに加工され、堆肥や木質燃料、畜舎の敷きわらなどに利用されている。

平成28年度においても下記により実施する。

■ 処理計画等

- | | |
|-----------|-----------------|
| ① 剪定枝等受入量 | 7,000 t/年 |
| ② チップ生産量 | 6,500 t/年 |
| ③ チップ販売先 | 堆肥生産事業者、熱供給事業者他 |
| ④ 受入する樹木 | |

街路樹や公園、あるいは建設工事等から発生した剪定枝、伐採木、抜根で、受入条件は次のとおりである。

- ・ 幹は直径80cm以内で、長さが2m以内の剪定枝などの樹木
- ・ 根は最大寸法（直径または長さ）1m以内で、土を落としたもの

3-2 びん・缶・ペットボトル選別事業 (予算額 955,798千円)

資源選別センターは、平成10年から札幌市が開始した「びん・缶・ペットボトル」の分別収集に向け、混合収集されたびん・缶・ペットボトルを種類毎に選別する中間処理施設として、公社が東区中沼と南区駒岡の2ヶ所に建設し、平成10年10月から稼働している。

家庭から排出されるびん・缶・ペットボトルの処理は札幌市からの受託事業として、事業所から排出されるものの処理は公社自主事業として実施している。

搬入されたびん・缶・ペットボトルは国及び(公財)容器包装リサイクル協会が定める分別基準等により選別・圧縮・梱包等の処理を行い、再商品化事業者へ引渡し再生利用を図っている。

また、不燃用プリペイド袋リサイクル事業で選別されたびん・缶・ペットボトルは当センターで再選別を行い再生利用の向上を図っている。

なお、駒岡資源選別センターの手選別業務は、知的障がい者の雇用の促進を目的に福祉団体に委託している。

平成28年度においても下記により実施する。

■ 処理計画

① 処理計画量	家庭系	34,400 t/年 (95.6%)
	事業系	1,580 t/年 (4.4%)
	計	35,980 t/年 (100.0%)

② 処理計画内訳

中沼資源選別センター		駒岡資源選別センター	
家庭系	24,100 t/年	家庭系	10,300 t/年
事業系	930 t/年	事業系	650 t/年
計	25,030 t/年	計	10,950 t/年
※事業系には、不燃用プリペイド袋から選別された資源物を含む			

3-3 施設管理受託事業 (予算額 152,887千円)

札幌市から受託業務として、市有4箇所のリサイクル施設等の施設管理業務を、同市のごみ処理計画及び運転・運搬計画等に基づき実施している。

(1) ごみ資源化工場ほか施設管理事業 (予算額 74,117千円)

札幌市では、事業系の木くず等の適正処理及び再資源化を図るため、平成2年3月、全国に先駆けて事業系の木くず、紙くず等を利用して固形燃料(RDF)を生産するごみ資源化工場を建設した。

本事業は、札幌市からの受託業務として、搬入ごみの計量業務、手数料の徴収業務、同市が別途発注している関連業務の管理等、ごみ資源化工場と篠路破碎工場等の施設運営に関する総括管理等の業務を実施している。

平成28年度においても下記により実施する。

■ 総括管理業務

① 管理対象施設

- ・ごみ資源化工場
- ・貯留サイロ
- ・篠路破碎工場及び破碎工場付帯施設

② ごみ資源化工場処理計画

- ・ごみ受入量 18,900 t/年
- ・固形燃料生産量 16,640 t/年
- ・固形燃料出荷先 北海道地域暖房㈱
- ・固形燃料出荷量 16,500 t/年

③ 篠路破碎工場処理計画

- ・ごみ受入量 12,700 t/年

(2) 中沼プラスチック選別センター施設管理事業 (予算額 37,839千円)

中沼プラスチック選別センターは、札幌市が開始した家庭系「容器包装プラスチック」の分別収集に伴い、これらの選別等を行う中間処理施設として平成12年より稼働している。容器包装プラスチックは、国及び(公財)日本容器包装リサイクル協会が定める分別基準により選別・圧縮・梱包等の処理を行い、同協会を通じて再商品化事業者に引き渡され、再生プラスチックや高炉還元剤などにリサイクルされている。

本事業は、平成20年10月から、札幌市からの受託業務として、同市が別途発注している関連業務の管理を含めた当センターの施設運営に関する総括管理等の業務を実施している。

平成28年度においても下記により実施する。

■ 総括管理業務

① 管理対象施設

中沼プラスチック選別センター

② 処理計画

- ・プラスチックごみ受入量 29,200t/年
- ・ベール引き渡し量 26,300t/年

(3) 中沼雑がみ選別センター施設管理事業 (予算額 17,416千円)

中沼雑がみ選別センターは、札幌市が開始した家庭系「雑がみ」の分別収集に伴い、これらの選別等を行う中間処理施設として平成21年より稼働している。収集された雑がみは選別・圧縮・梱包され、再生紙や固形燃料(RDF)の原料としてリサイクルされている。また、当センターにおける手選別業務の一部は、知的障がい者の雇用の促進を目的に、札幌市から福祉団体に委託されている。

本事業は、札幌市からの受託業務として、同市が別途発注している関連業務の管理を含めた当センターの施設運営に関する総括管理等の業務を実施している。

平成28年度においても下記により実施する。

■ 総括管理業務

① 管理対象施設

中沼雑がみ選別センター

② 処理計画

- ・雑がみ受入量 9,730t/年
- ・再生紙原料引き渡し量
 - 雑がみ 7,580t/年
 - 主要古紙 470t/年

 - 計 8,050t/年

(4) 札幌市リサイクル団地管理事業 (予算額 23,515千円)

札幌市リサイクル団地は、廃棄物の減量・リサイクルを総合的に推進するモデル的な廃棄物の処理施設群である。団地の基盤整備については、札幌市が平成6年から平成8年にかけて行い、処理施設の建設・運営は、民間処理業者、第三セクター及び札幌市の3事業主体が各々行っている。

団地内には、「リサイクル資料館」と福利厚生施設「ふれあいホール」があり、リサイクル資料館の1階では、団地内で操業する各施設の処理工程パネルやリサイクル品等が展示され、2階は団地見学者への総合的な説明の場や、研修・会議等の会場として利用されている。

本事業は、札幌市からの受託事業として、リサイクル団地参入企業間の連絡調整、共用施設や団地内道路の維持管理等の業務を実施している。

平成28年度においても下記により実施する。

■ 業務内容

- ① リサイクル団地の連絡調整・見学対応等業務
- ② リサイクル資料館・ふれあいホール・井水ポンプ室の維持管理業務
- ③ リサイクル団地内市道の点検、清掃、除排雪業務
- ④ リサイクル団地雨水調整池等の整備業務
- ⑤ リサイクル団地協議会の開催
- ⑥ その他管理業務

3-4 大型ごみ収集センター管理運営事業 (予算額 25,237千円)

大型ごみ収集センターは、札幌市が平成9年度から開始した家庭から排出される「大型ごみ」の戸別収集への変更及び有料化に伴い、市民からの収集依頼等の電話受付を行うセンターとして開設されている。

本事業は、札幌市からの受託事業として、札幌市や同市が別途発注する受付業務受託者及び収集業務受託者等の連絡調整の窓口となり、大型ごみ収集に係る受付から収集までの一連の作業を円滑に行うための総括調整業務を実施している。

■ 事業計画

① 受付及び問合せ件数	503,000 件/年
② 収集件数	352,000 件/年
③ 収集個数	877,000 個/年
④ 収集量	12,300 t/年

4 事業系ごみ収集運搬事業（予算額 6, 243, 135千円）

本事業は、札幌市内、約3万2千件の事業所から排出される年間約17万トンの事業系ごみの収集運搬を行っている。

平成6年の事業開始以来、事業系ごみの減量・リサイクルを積極的に進めるため、焼却する「一般ごみ」の他に、紙くず・木くず・軟質プラスチックの「資源化ごみ」、「生ごみ」、「びん・缶・ペットボトル」や「不燃ごみ」など分別収集メニューを増やし、平成27年度の年間全収集量に占めるリサイクル率は22%となっている。

平成28年度の収集計画量は、平成27年度計画量に比べ体積ベースで微増し、重量ベースでは微減が見込まれる。

また、平成28年度の事業運営に当たっては、収集量に見合った収集体制を構築するため、引き続き収集運搬の効率化を進めるとともに、新業務管理システムの安定運用をはじめ、ごみ収集に関する顧客満足度調査などを実施し、さらなる顧客へのサービス向上に向けて取り組んでいく。

■ 事業計画

① 収集対象事業所

- ・伝票収集事業所 約10,000事業所
- ・プリペイド袋収集事業所 約22,000事業所

② 年間収集計画量

ごみの種類	収集計画量(m ³)	搬入量(t)
一般ごみ	829,930 (822,030)	133,660 (133,990)
資源化ごみ	111,840 (114,460)	9,100 (9,330)
生ごみ	48,760 (50,290)	23,490 (23,670)
不燃用プリペイド	25,800 (26,690)	2,290 (2,450)
剪定枝	1,670 (1,310)	120 (100)
びん・缶・ペットボトル	16,990 (15,470)	1,380 (1,340)
合計 (前年度比)	1,034,990 (1,030,250) 0.46%	170,040 (170,880) ▲0.49%

※ ()内は平成27年度計画量

■ 新業務管理システムの運用

平成26年10月から開発を進めてきた新業務管理システムは、旧システムとの平行稼働を行い、平成28年4月から本格稼働を予定している。また、請求書の発行事務等についても全面的にアウトソーシングするなど業務のスリム化を図っていく。

■ 重点事業

① 事業系ごみ収集運搬の効率化

業種や事業規模等を考慮した収集回数の基準等のガイドライン及び対応マニュアルを策定し運用することで、既存事業所の収集曜日の見直しなどを行い収集の集約化を図っていく。

また、著しく排出量が少ない事業所や新規事業所で3ヶ月を経過した段階での排出量を調査し、収集回数や収集曜日の見直しなどを働きかける。

② 家庭系一時多量ごみの収集体制の再構築

家庭系一時多量ごみについては、収集体制の見直しを行うことにより、収集までの迅速性の向上等、市民ニーズへの的確な対応を図っていく。

Memo